

VOL.  
16

## with LIFE



## 2026年、意識改革の年 「道路交通法改正」で 何が変わる？

2026年は道路交通法の改正により、生活道路や自転車利用のルールが大きく変わる転換期となります。

この法改正の背景には、生活道路での高齢者や子どもが被害者となるような交通事故の増加、通学や通勤での自転車利用が増え、無秩序で危険な運転が目立つようになったという状況などが挙げられます。主に改正が進んでいるのは、「自転車の交通違反への青切符導入」、「自動車が自転車を追い越す際のルール新設」、「生活道路の法定速度の引き下げ」、「普通仮免許などの取得年齢引き下げ」の4項目となります。

まず「**自転車の交通違反への青切符導入**」について。本来青切符

(交通反則告知書)は自動車や原付での交通違反の際に交付される制度でしたが、この度自転車にも適用されることとなりました。「自転車は車両」という意識を持ち、「少しくらい大丈夫」という慢心を捨てて交通ルールを守ることが求められます。

「**自動車が自転車を追い越す際のルール新設**」に関しては、車が自転車を追い越す際は、1.5m以上の間隔を空ける、それが難しい場合は徐行に近い速度まで減速した通過が求められます。推奨される通過速度は「自転車の速度+5~10km/h」です。自転車側もできる限り左端に寄ることが求められ、双方が新たなルールを認識し安全を譲り合う姿勢が重要となります。

「**生活道路の法定速度の引き下げ**」については、従来の60km/hから30km/hへ引き下げられます。対象は法定速度を示す標識が設置されておらず、センターラインや中央分離帯のない道幅5.5m以下の狭い道路です。歩行者の安全を守るため、地域に密着した道路での速度規制が厳格化されます。

最後の「**普通仮免許などの取得年齢引き下げ**」は、早生まれの高校生も学校卒業までに普通免許を取得できるよう、受験年齢を17歳6カ月に引き下げられます。

新たな法改正を正しく理解、安全運転教育を徹底して交通事故の減少、そして一人ひとりが安全に暮らしていける社会を目指しましょう。

# 安全運転とクルマの性能の維持に貢献 ブレーキパーツクリーナーの概要と注意点



速乾性により残留物を残すこともなく、制動性能の維持、  
摩耗や異音・不具合などといったトラブルの予防に  
つながっていきます。



## ブレーキパーツクリーナーって？

ブレーキパーツクリーナーとは、ブレーキシステム周りに付着した汚れや油分（ブレーキダストやグリス、オイルなど）を効率よく除去するためのケミカル用品です。

非常に強力な洗浄力を持ち、速乾性や残留物が少ないなどのメリットがある一方で、使用方法を誤ると人体に様々な悪影響を及ぼす可能性があります。


## 「人体への悪影響」とは？

有機溶剤を主成分としているブレーキパーツクリーナーの主な影響として、呼吸器への影響（めまい、吐き気、頭痛）や目や肌への直接的な影響（角膜損傷、皮膚炎）などがあります。また、長期間にわたって使用することで、アレルギーや発がんのリスクが高まる可能性もあります。

使用方法に気を付け、安全に正しく活用しましょう。

**!** ブレーキパーツクリーナーの **安全対策3箇条**

- 1 皮膚に触れない、吸入も避ける!**  
保護服やマスク、手袋を使用し体への影響を最小限に。
- 2 使用時は通気性の良い場所で!**  
作業中に吸い込む量を少しでも減らし、作業後も十分な換気を。
- 3 使用に適さない素材を確認!**  
ゴムや塗装面など、劣化や変色のおそれあり。




**イチ押し**  
**メンテナンス**  
— ATTENTION! —

見えない危険を、見える安心に。

## 引火点を持たない、不燃性洗浄剤

洗浄力そのままに、作業空間に安全と自由を。  
車両部品の油汚れを除去し、クルマの性能を最適化!

引火点を持たないため、エンジンルーム内や電気系統周辺など、引火性が懸念される場所でも作業効率を落とさずに安心・安全に使用できます。

従来の第二石油類溶剤系クリーナーと同等の優れた洗浄力を持ち、ブレーキダストやグリスを素早く分解。ゴム、樹脂への材料影響も少なく、速乾性にも優れているので、部品の素材を選ばず使用が可能です。

### ゼロフレアブレーキ&パーツクリーナー

内容量:160g 消防法:非危険物  
容器仕様:エアゾール缶(噴射用ノズル付き)

火気厳禁の現場でも、  
安心して使える  
パーツクリーナー

火を近づけても  
引火しません

